

## 自己点検・自己評価

学校法人KCP学園 KCP地球市民日本語学校

校長 金原宏

5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

## 1. 教育理念・目的等

評価

1	1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2	1-2	育成する人材像は社会のニーズに合致しているか	5
3	1-3	学校の特色は何か	4
4	1-4	学校の将来構想を抱いているか	4

## 【現状・具体的な取り組み・課題】

本学の教育理念は、K(Knowledge=知識)、C(Coexistence=共生)、P(Peace=平和)という校名に象徴されている。世界の人々が、KCPで共に切磋琢磨しながら学び成長することにより、文化の違いを越えて、人類の普遍的な諸価値の実現に貢献しうる人材を育成することにある。

また、本学の教育目標は、高度で質の高い日本語力と、明晰性、論理性、批判性に富んだ思考力、ならびに、日本文化の深い理解に基づく異文化探究力の修得を通して、一人一人の学生に、人生の試練を乗り越えて、たくましく生き抜くことのできる人間力と地球市民としての豊かな情操と寛容な精神を育むことにある。

学生に明晰性、論理性、批判性に富んだ思考力をつけさせるという課題は、本学の実践的重要課題である。一方、日本文化の深い理解、たとえば茶道、琴、演劇、歌、マンガアニメなどが授業外のクラブ活動として盛んに行われており、日本文化を体験する場を提供している。これらをさらに深度のあるものとするのが課題である。

## 2. 学校運営

評価

5	2-1	学校の運営体制は日本語教育機関の告示基準を満たしているか	5
6	2-2	理念や目的に沿った運営方針・事業計画が策定されているか	5
7	2-3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	5
8	2-4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
9	2-5	意思決定システム、コンプライアンス体制が整備されているか	4
10	2-6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5
11	2-7	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	4
12	2-8	危機管理体制は整備されているか	4

## 【現状・具体的な取り組み・課題】

2014年に新校舎が完成し、ハード面では競争力ある施設となった。ソフト面での運営は、意識が高い教職員とそうでない者とのばらつきがある。全教職員が一丸となって、ソフト面での充実を図ることが課題である。

### 3. 教育活動

評価

13	3-1	教育理念にそったカリキュラムが体系的に編成されているか	5
14	3-2	目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	4
15	3-3	成績評価や進級、修了の判定基準は明確で、適切に運用されているか	5
16	3-4	授業評価の実施・評価体制はあるか	5
17	3-5	教員の指導力向上のための取り組みはあるか	5
18	3-6	カリキュラムの改善のための取り組みはあるか	5

#### 【現状・具体的な取り組み・課題】

四技能をバランスよく伸ばしていくという教育理念にそって、カリキュラムを編成している。また、変化する学生の質やニーズに合わせて、カリキュラムは常に改善を重ねている。特に、初級レベルでの音声指導の徹底や会話力チェックの実施など、読み書きのみに偏らない指導を行っている。そのために、教員は常に打ち合わせ、反省会、勉強会などを行い、より質の高い授業が提供できるように努力している。

成績、進級などの基準は明文化されており、オリエンテーション等で学生にも周知徹底している。教員はその基準にしたがって判定し、記録している。

授業評価については、専任講師、非常勤講師を交えての授業見学を実施したり、学生にアンケートを実施したりしている。また、大学の教育実習生の授業見学記録などを参考にすることもある。

教員は現状に満足することなく、指導力向上のために、レベルごとに勉強会を行ったり、学期休みなどを利用して、ICT講習会などを行ったりしている。また、外部機関におけるさまざまな講習にも参加している。

### 4. 学習成果

評価

19	4-1	学習者の日本語能力の向上が図られているか	5
20	4-2	各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	5
21	4-3	学習状況を適切に把握しているか	5
22	4-4	学習者の日本語学習の目的や進路の希望などを適切に把握しているか	5

#### 【現状・具体的な取り組み・課題】

学生の日本語力向上のため、さまざまな実践授業をもうけている。また、それぞれの目的に応じて、日本留学試験や日本語能力試験などの各種試験に対応するための対策授業をもうけている。

特に目的が多様化する中上級では、ニーズにあわせた選択授業を実施するなど、試行錯誤しながら細かい対応につとめている。

学習状況はクラスでの様子だけにとどまらず、個別面談や授業外での交流を通して、日本語学習の悩み、生活上の問題など、学習者のおかれている状況を把握した上で指導をしている。さらに、進路指導においては過去のさまざまなデータを駆使して学生の真の留学目的が果たせるようにアドバイスをしている。

## 5. 学生支援

評価

23	5-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	5
24	5-2	常に最新の学生情報を把握しているか	5
25	5-3	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
26	5-4	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
27	5-5	学生の心身の健康管理や事故、怪我の際のサポートを担う体制があり、有効に機能しているか	5
28	5-6	卒業生への支援体制はあるか	4
29	5-7	防災や緊急時における体制が整備されているか	5

### 【現状・具体的な取り組み・課題】

毎学期アンケートを実施し、学生の所在やアルバイトの状況などの情報把握に努めている。また、各学期中に必ず個別面談を行い、学習の指導や生活状況の把握、進路や進学についての相談などを行っている。特に職員室はオープンな空間となっており、相談は授業外でも常時受け付けている。学業不振、出席不良、その他トラブルが発生した場合、教職員一丸となって解決までフォローすることを方針としている。

学生には入学時のオリエンテーションで健康維持のための基本知識を説き、体調不良による欠席の場合でも必ず学校に連絡をするよう指導している。また、通学中の自転車事故で加害者になり、大きな負債をかかえることのないよう、自転車保険の加入を義務付けている。また病気や怪我のサポートの一環として、近くのクリニックに校医になっていただき、協力体制をとっている。その他にも、最寄りの病院の紹介、引率や通訳、AEDの設置などさまざまな面からサポートしている。

卒業後日本で進学・就職した学生たちを、学校行事に招待したり、先輩としてアドバイスをしてもらったりしながら、交流を続けている。こういった交流を通して支援を継続している。

防災については、全校を挙げて定期的に訓練を行うなど、地震や火事に備えて知識だけではなく実地で体験をさせている。

## 6. 教育環境

評価

30	6-1	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	5
31	6-2	使われている教材は適切か	5
32	6-3	学習効率を図るための環境整備がなされているか	5

### 【現状・具体的な取り組み・課題】

教室には広めの学習机、大きめのホワイトボード、テレビモニター、エアコンなどが完備されており、学生が快適に勉強できる環境が整っている。また、図書室やラウンジ、校庭の他にも多目的室や和室などの交流スペースもあり、ゆったりと勉強できる環境になっている。これまで教材開発にも力を入れてきたため、オリジナルの漢字教科書をはじめ、学習ニーズに合わせたテキストを使用するようにしている。また、各教室のモニターを活用し、視覚的にも理解しやすい授業を心がけ、自宅での発話練習を支援する音声教材の提供など、ICTを活用した効率の高い練習方法を常に模索している。

7. 学生の募集と受け入れ		評価
33	7-1 学生の受け入れ方針は定められているか	5
34	7-2 学生募集活動は、適正に行われているか	5
35	7-3 学生募集活動において、学校の情報は正確に伝えられているか	4
36	7-4 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
37	7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5
38	7-6 授業料等は適切か	5

**【現状・具体的な取り組み・課題】**

本学は来年創立35周年を迎える。学校にとって学生募集は経営の生命線と考えている。よって、学生の募集には細心の神経と最大の努力を払っている。特に、ベトナム等の新興国からの学生に対しては、必ず本学職員が現地に飛んで面接や試験を行っている。こういった長年のノウハウの蓄積の上で、質の高い学生に入学してもらえよう努力を続けており、徐々に成果が出始めている。

8. 財務		評価
39	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
40	8-2 予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
41	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	5
42	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4

**【現状・具体的な取り組み・課題】**

徹底して無駄を省くとともに、教育環境改善のための投資には大変積極的である。今年も新たに「校庭」を設置し、学生の福利に努めている。また、21世紀の新しい教育を展望した2号館建設も計画している。本学は常に最高の教育を提供する用意ができている。

9. 法令などの遵守		評価
43	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
44	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5
45	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5
46	9-4 自己点検・自己評価を公開しているか	5
47	9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5

**【現状・具体的な取り組み・課題】**

各種学校の日本語学校として、法務省、東京都の法令、設置基準を満たした適正な運営をしている。  
個人情報保護についてもマニュアルを設け、対策が取られている。  
地方入国管理局に対する定期報告(受入れ開始、終了、申請取次実績など)も遅滞なく実施している。

## 10. 地域貢献・社会貢献

評価

48	10-1	学校の教育資源や施設を活用した地域貢献、社会貢献を行っているか	5
49	10-2	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	5
50	10-3	一般を対象とした公開講座の実施等の取り組みを行っているか	4

### 【現状・具体的な取り組み・課題】

授業の一環として、毎学期日本人のボランティアゲストを招き、グループ会話を行っている。学生にとっては実践力の向上、到達度の確認といった側面もあるが、日本人のゲストのみならずにも外国人留学生をより身近に感じていただける交流の機会となっている。

他にも、3ヶ月に1度、チャリティーバザーを実施している。これはボランティアの方々と実施する交通遺児のためのバザーであり、普段助けていただくことの多い学生が、貢献できる場として定着している。

また、地域のお祭りに参加したり、小学校の総合学習にゲストとして参加するなど、地元での交流を通して異文化理解、相互理解に努めている。さらに、ボランティア活動に興味のある学生たちは、「ボランティアクラブ」の活動に参加し、ペットボトルのキャップを集めたり、被災地に募金を募る活動などしている。